

総会特集号

やわたコミュニティ

第 7 5 号
平成26年6月30日発行 八幡コミュニティ
責任者 早川義一 TEL 32-0144
印刷 八幡コミュニティ
編集 総合管理部平成二十六年
度

八幡コミュニティ総会

平成二十六年五月十八日
於 八幡公民館

六号議案承認される

◇創立三〇周年

記念事業

◇自治宝くじ

助成金による

防災器材購入

「次なる一歩の礎」

八幡コミュニティ会長
早川 義一

八幡コミュニティは平成二十七年一月に設立三十周年を迎えます。三十年という長い年月の間に蓄積された活動の記録や資料を次の世代に引き継ぐ、その積み重ねが歴史や伝統・文化へと発展していきます。自分

たちの郷土でありながら八幡について知らないことがたくさんあります。お年寄りの方々が持つておられる昔からの言い伝えや暮らしぶりを多くの方たちに知っていただく機会を作ってみたいと考えました。

「次なる一歩の礎」
私たちの活動の目的は、「自分たちの住む地域は自分たちの手で住みよくする」ことにあります。自分の生まれたまち、そして育ったまちに愛着と関心を持つていただくために、三十周年記念事業として「ふるさと検定試験」あなたも

「次なる一歩の礎」
最後に、八幡地区の皆さまの熱い思いを少しずつでも形にしていけるために、会員の皆さま方のさらなるご参加とご協力をお願い申し上げます。

知多市では、住宅の各種耐震対策に費用の補助を行っています。詳しくは「広報ちた」6月1日号をご覧ください。



◇創立30周年記念事業

1. 記念式典
2. 記念誌「八幡の古語り」発行
3. 「ふるさと検定試験」実施
4. 八幡神社祭礼の活性化「屋形」修復
5. 八幡コミュニティ公式ホームページ開設

◇防災器材購入品一覧表

	品 名	数量	仕 様
1	防音型インバータ発電機	6	ガソリン式 100V 1.6kVA
2	防雨・防塵型電工ドラム	6	50m 防水アース付
3	特定小電力無線機	10	防水 単3電池1本駆動
4	物 置	1	W2630×D950×H2075
5	ステンレスドラム缶	2	200 ℓ
6	アルミ そば羽反・蓋	3	蓋60cm

文化・福祉部会			
部会長	大橋 真人	部 員	小松原 勲
副部長	稲葉 行彦	部 員	村瀬 茂次
書記	阿知波源助	部 員	早川 昭夫
会計	花井 弘光	部 員	鈴木 知美
部 員	神谷 銑三	部 員	鰐部ひとみ
部 員	竹内 宣友	部 員	加藤 一子
部 員	加古 権弐	部 員	林 江美子
《地域コミュニティ推進担当》			
荒 井	米重 さやか	西 平 井	鰐 部 好 子
〃	前 田 祐 子	〃	平 松 信 子
〃	稲 葉 恭 子	上 平 井	中 川 圭 子
荒 古	高 橋 栄 子	〃	杉 浦 加 代 子
〃	長谷川とも子	杉 山	下 村 薫 世
〃	高尾八重美	〃	早 川 敦 子
堀 之 内	井 口 潤 子	〃	川 合 さ と み
〃	尾之内澄子	八 幡 新 町	住 吉 ま ゆ み
廻 間	加 藤 奈 津 子	〃	山 下 順 子
〃	小 島 寿 美	〃	石 田 順 子
中 島	平 松 一 恵	寺 本 台	林 久 美 枝
〃	矢 田 弘 子	〃	松 浦 真 砂 子
中 小 根	峯 神 亜 由 美	〃	平 木 静 枝
〃	加 古 由 美	寺 本 新 町	牛 尾 幸 子
〃	古 川 泰 子	〃	浅 井 ひ ろ 子
浜 小 根	小 島 緑	〃	伊 藤 安 輝 子
〃	富 田 末 子		

青少年健全育成部会	
部会長	久野 敏浩
副部長	神谷 智子
書記	久野 敏浩
会計	早川 由花
部 員	松本 淑子
部 員	浅井 淑恵
部 員	今別府 裕美
部 員	早川 由市
部 員	伊藤 茂
部 員	下村 せつ子
部 員	山本 幹雄
部 員	早川 昌典
部 員	青山 清
部 員	伊藤 つな子
部 員	小松原 八重子

環境・安全部会	
部会長	山口 和真
副部長	森 雅子
書記	西村 錠
会計	山本 典子
部 員	伊藤 綾子
部 員	山内 実保
部 員	岩本 かおる
部 員	神野 智鶴
部 員	大柿 靖世
部 員	平松 喜代一
部 員	平松 健次郎
部 員	平松 佑介
部 員	大西 慶
部 員	濱地 憲史

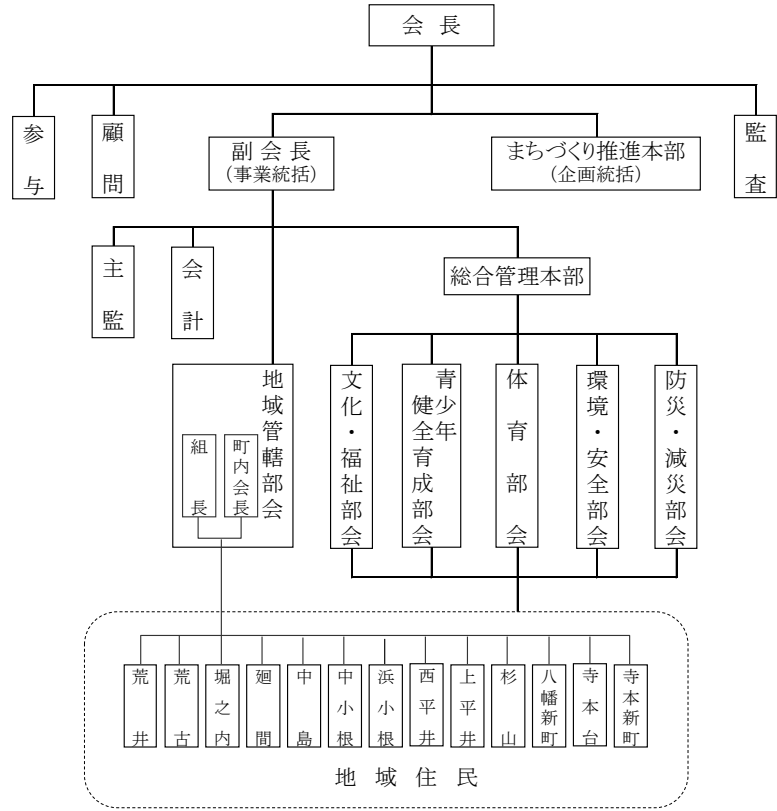
役 職	氏 名	備 考
会 長	早 川 義 一	八幡区長
副会長	磯 貝 生 男	八幡区副区長
主 監	平 松 正 毅	まちづくり推進本部長
	鰐 部 了 介	地域管轄部会長
	大 橋 真 人	文化・福祉部会長
	久 野 敏 浩	青少年健全育成部会長
	大 石 敏 雄	体 育 部 会 長
	山 口 和 真	環境・安全部会長
	平 松 鋼 一	防災・減災部会長
会 計	磯 貝 生 男	八 幡 区 副 区 長
	花 井 真 紀	総合管理副本部長
監 査	内 山 雅 春	23 年 度 会 長
	平 松 宏 一	23 年 度 副 会 長
顧 問	伊 藤 正 治	知多市議会議員
	黒 川 親 治	知多市議会議員
参 与	山田純一郎	八 幡 小 学 校 長
	黒 川 敦 志	八 幡 中 学 校 長
	澤 田 哲	知多翔洋高等学校長
	新 海 由 美	八 幡 保 育 園 長
	平 松 裕 子	寺 本 保 育 園 長
	片 岡 顯	八 幡 公 民 館 長

体 育 部 会			
部 会 長	大 石 敏 雄	部 員	宮 下 隆 司
副 部 会 長	石 丸 英 章	部 員	平 良 智 之
書 記	木 村 文 子	部 員	早 川 巧
会 計	大 野 和 代	部 員	西 村 周 三
部 員	片 山 尚 幸	部 員	富 田 佳 裕
部 員	大 村 鐘 造	部 員	坂 口 謙 吾
部 員	倉 田 貢	部 員	花 井 基 伸
部 員	蜂 矢 雅 宏	部 員	早 川 朋 孝
部 員	山 口 裕 也	部 員	林 淑 美
部 員	平 松 五 男		

平成26年度 八幡コミュニティ

◆◆◆運営体制と役職者の皆さん◆◆◆

八幡コミュニティ組織図



地 域 管 轄 部 会		
部 会 長	鰐 部 了 介	西 平 井 組 長
副 部 会 長	寺 本 正 雄	荒 井 組 長
会 計	岡 本 勇 二	中 小 根 組 長
部 員	高 橋 光 夫	荒 古 組 長
部 員	下 村 勝 一	堀 之 内 組 長
部 員	神 谷 廣 雄	廻 間 組 長
部 員	平 松 政 和	中 島 組 長
部 員	小 島 行 雄	浜 小 根 組 長
部 員	中 川 善 治	上 平 井 組 長
部 員	下 村 賢 治	杉 山 組 長
部 員	住 吉 高 則	八幡新町町内会長
部 員	久 保 田 健 一	寺 本 台 町 内 会 長
部 員	牛 尾 重 春	寺 本 新 町 町 内 会 長

まちづくり推進本部 (企画統括)			
本 部 長	平 松 正 毅	本 部 員	小 川 隆 二
副 本 部 長	鰐 部 了 介	本 部 員	加 藤 由 裕
本 部 員	伊 藤 保	本 部 員	久 野 裕 和
本 部 員	早 川 裕 二	本 部 員	石 井 常 雄

総 合 管 理 本 部	
本 部 長	磯 貝 生 男
副 本 部 長	花 井 真 紀
副 本 部 長	木 村 俊 雄
本 部 員	加 古 秀 男
本 部 員	尾之内哲男
本 部 員	伊 藤 中 一
本 部 員	平 松 正 毅
本 部 員	森 田 和 博
本 部 員	小 嶋 甚 三
本 部 員	浅 井 充 彦
本 部 員	神 谷 廣 雄
本 部 員	平 松 政 和
本 部 員	早 川 裕 二
本 部 員	寺 田 建 司

防 災 ・ 減 災 部 会	
部 会 長	平 松 鋼 一
副 部 会 長	西 野 良 雄
副 部 会 長	山 本 道 男
書 記	鈴 木 卓 史
会 計	花 井 計 夫
アドバイザー	加 古 正 彦
部 員	吉 田 幸 也
部 員	高 尾 正 昭
部 員	小 島 宏
部 員	平 松 克 将
部 員	平 松 喜 代 則
部 員	富 田 幸 男
部 員	平 松 淳 二
部 員	杉 浦 道 人
部 員	早 川 恒 俊
部 員	石 田 康 二
部 員	通 山 勇
部 員	浅 井 進

平成26年度予算と事業計画

1. 予 算

(単位:円)

項 目		予算額
収入の部	会 費	130,000
	交 付 金・補 助 金	5,637,000
	委 託 事 業 契 約 金	399,000
	自 治 宝 く じ 助 成 金	1,900,000
	前 年 度 繰 越 金	292,757
	寄 付 金	420,000
	積 立 金	600,000
	雑 収 入	10,000
収入合計		9,388,757
支出の部	交 付 金 事 業	6,030,000
	委 託 事 業	458,000
	自 治 宝 く じ 助 成 事 業	1,967,220
	創 立 30 周 年 記 念 事 業	600,000
	地 域 福 祉 活 動	310,000
	予 備 費	23,537
	支出合計	9,388,757

2. 事業計画

月	日	主な事業内容
4	27	第13回ウォーキングデー2014
5	18 24 25	総会・部会 第1回緑化事業 クリーンキャンペーン
6	7	第2回緑化事業
7	26	～7/27 盆おどり大会
9	28	第35回八幡地区市民運動会
10	12	八幡神社祭礼 祭囃子生演奏奉納
11	8 16	第3回緑化事業 三世代交流 「グラウンドゴルフ大会」
12	6	「年末交通安全運動」立哨
1	1	祭囃子生演奏新春成果発表
3	15	会計監査・役員会
毎月1回		ふるさと検定「八幡塾」
年間8回		広報紙「やわた」発刊

第7回 わがまち再発見

寺本台

町内会長

前田眞次(二五年度)

平成26年5月現在 (単位:人)

区 分	人 数	人口比率
人 口	1,618	—
世 帯 数	592	—
敬老人口	96	5.9%
子ども会	97	6.0%



寺本台本通り

寺本台は他に比べて比較的新しい地域です。約四十年前は山と畑、数軒の家しかありませんでしたが、住宅開発により、今では約五〇世帯余りの住民が暮らしています。

地域の中には寺本台グラウンドやテニスコートがあり、町内の行事やクラブ活動等に使用されています。その中でも七月に開催される「寺本台夏祭り」は毎年盛大に行われ、尾張万歳、

大道芸、和太鼓、バンド演奏などたくさん催しものが披露されます。イベントの最後には「福引き大抽選会」が開催されますが、多くの住民の皆さんが楽しみにしている行事のひとつです。

近年はコンビニもでき住民の生活の助けとなつていきます。お店の近くでは夕方ころになりますと、健康のために歩いている人や犬の散歩をしている人も多く見うけられ、隣近所の人たちとのあいさつやちよつとした会話のきっかけともなっているようです。

日常生活を安心して暮らすことができるように地域全体で安全パトロール等の活動をしながらかみ、楽しい街づくりを心掛けています。

また、毎年少しずつではありますが、新しい住民の方が増え、益々活気ができています。地域住民が力を合わせて子どもから高齢者まで住みやすいまちづくりを目指し頑張っています。

天災人悟

「Q」南海トラフ巨大地震(東海・東南海・南海地震)はいつ来るの?

◆国の中央防災会議の発表(平成十五年)では、東海地震が今後三十年間に発生する確率は八七%とされている。ただ、この数値はあくまでも参考値で、実際の発生確率は詳しくは分かっていない。

◆地震の発生メカニズムを分析して算出したのではなく、過去に発生した周期に基づいているものであり、東海地震自体が何年周期で起きるのかわからない。東南海地震や南海地震は過去に何回も発生が確認されており、発生確率の精度が高い。東海地震の発生確率は、東南海地震の発生周期を準用して算出している。正確な予測ができなくても、東海地方に近い将来大地震が発生するおそれがあることには変わりない。

◆数値に捉われず、必ず来るという意識で家の耐震補強や家具の転倒防止など、地震への備えに心掛けることが大切。

「この記事への意見等の連絡先」

八幡コミュニティ
防災・減災部会長

平松鋼一